**アンケートピックアップ**

**10月16日　株式会社 GIFMAGAZINE　代表取締役社長 大野　謙介　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

GIFと聞くと、個人的には新しいという感じはなく、むしろ古いと感じます。今は動画の画質や見やすさがどんどん向上してそれがYouTubeなどを通して手軽に見たり発信したりできるようになっていて、高いレベルの動画が増えている中で、５秒前後の音もない動画に価値を見出し、それで「新しいポップカルチャー」を作っていくという決断をしたのがすごいと感じました。今日は大野さんが実際に起業した流れに重ねて、どのように自分がやりたいことでお金を稼いでいくのかということをお話ししていただいて、すごく身近に「起業」を感じることができました。ありがとうございました。（経営学部１年）

大野さんは年齢も自分達と近く、例や動画などを多く使ってくれていたので、とても楽しく授業を聴くことができた。最も印象に残った言葉は“何もやらないことは簡単だ”である。この言葉を聞いて、「その通りだな」と率直に思った。普段の生活でも大変だから何もやらないことがあるが、そのような気持ちがあると大野さんのように何かに成功できるようなことがあることを学んだ。また大野さん自身も大学生の時は、社長になって大金を操ることができるとは思っていなかった、と言っていた。だから自分も頑張っていれば将来に何があるか分からない。最後に自分が負えるリスクを知ることが求められることも学んだ。自分の状況や限界を知ることも成功への鍵となることを学んだ。 (教育学部 保険体育学科 １年)

会社を経営するに至った理由が「自分の好きなものをして、死ぬ時に後悔しないような生き方がしたい」という夢のある理由で、クリエイティブな仕事にぴったりな言葉だと思いました。また、その”夢”を実現させるための勉強などで現実的に着実に迫って、会社という形にした、という現実みのある面や努力を知ることが出来て、とても勉強になりました。大学生という自由な時間が沢山あるという中で、好きなことを追及していきたいと夢がふくらみました。(教育学部　学校教育課程　1年)

大きなことを成し遂げるためにやらなければならないことというと、その過程自体のハードルが高いように感じなかなか踏み出すのが大変だと思っていたけど、今回のお話に合ったように、ほんの少しのことでも将来大きなことに繋がるんだということを学んだ。今までに私もGIFを見たことがあって、すごく短い内容であるのに目をひくものばかりでそれがただ面白い動画でおわるだけではなく、企業の広告まで発展したのもGIFMAGAZINEがあったからだと思った。また、リスクを負いたくても負えないという考え方が今までの自分になく、いい意味で衝撃的だった。（理工学部　化学生命系学科　2年）

「新しいポップカルチャーを創る」というフレーズがとても興味をひかれました。自分自身、広告とかメディア業界に将来は携わっていきたいと考えているのですが、その中で新しい広告やメディアの在り方を創れるようになりたいと思っていました。しかし、具体的になにをすればいいのかも分からないし、創造性も正直なところ自信がなかったので、最初のフレーズでぐっと引き付けられました。また、「深く考えなくていい」「好きなことをする」と聞いてとても気持ちが軽くなりました。（経営学部　1年）

自分がやりたいことを見つけられていないのですが、今回の講演で過去を振り返ることで見つけていくパターンと、死ぬとき、未来から逆算して見つけていくパターンを教えていただけたことが特に興味深かったです。０の状態から何か生み出すのはハードルが一番高いと思っていたけれど、自分が思っていたよりも手軽にできると知り驚きました。また私はハードルや失敗が怖くて踏み出せずにいたことが何度かあったので今回の講演で背中を押されたような気がして気が楽になりました。周りの友達が自主的にやりたいことを見つけ、充実した生活を送っているので最近私は焦りを感じているのですが、人生を未来からみて逆算しいけば良い、という考えにすごく励まされました。また、今はやりたいことが見つかっていないのですが、小学生の頃の夢が服飾デザイナーだったのでそれを実現するのも一つのきっかけになるのではと思いました。　　（経営学部１年）

身近で使っているコンテンツを運営している方のお話を聞けて、話にのめりこむことができた。意外だったのは、初めは会社にするつもりはなくやりたいことをやっていた結果の現在ということだ。SNSが普及していて、「見えない場の提供」というのが現在ものすごい成長を見せていて、私自身その分野に非常に興味があるので、関連性のあるGIFのことが聞けたのは、この授業を取ってよかったと思った。、起業までのステップをかみ砕いて、わかりやすく教えていただいたので参考になった。(都市科学部　1年)

学生はリスクを負いたくても負えないという言葉が心に残った。その事実に焦燥感を覚えた。年齢や経験の有無といったことは関係ないという言葉に背中を押された。(理工学部数物・電子情報系1年)

レジ今までは将来やりたいことがないことを悩みとしていたけれど、今回の講義をきっかけによく考えてみたら、まずやりたいことを探そう、気づこうとしていなかったことに気づきました。“一番のハードルはお金でも機会でもなく自分の心”という言葉が心に刺さりました。これから自分が何を考えるべきか、するべきか、ヒントをもらえた講義でした。(理工学部　化学生命系学科　2年)

ュメで自分のやりたいことを考えたとき、34ページが印象に残りました。４つのやりたいことはぱっと見達成することは難しそうな内容なのに、スモールステップで実現しようとすると、意外にも簡単に実現するものが多いことに気づかされました。自分の目標ができたときにはいきなり達成する道を考えるのもいいかもしれないけど、ひとまず目標の規模を少し小さくして達成してみるのもいいなと思いました。（理工学部　化学生命系学科　2年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

今回の講義でご紹介された、やりたいことを見つけるワークシートをじっくり時間をかけてやりたいと思います。社会の中で自分を気にしすぎるのでなく、自分自身がやりたいこと、思うことを追求していくようにしたいです。様々な経験を積んで遠回りになっても自分の満足いく人生を歩んでいけるようにチャレンジしていきたいです。（経済１年）

具体的にどのようにしてお金を借りたかやどのようにしてプロトタイプを作ったか、を述べられていてひとつのやり方がわかったような気がした。自分は将来国際公務員になりいと思っていて、しかしリスクが大きすぎて本当になるのかどうか決めかねていたが、自分がやりたいことでありもしそこで失敗しても学べることが多いので改めて国際公務員になる決心をした。(経営1年)

ゼロを0.001にしてみる、ということも印象に残りました。何かをやってみるのに頑張れば出せる金額でチャレンジできるのだと知って驚きました。大賭けはできない性格ですが、チャレンジしてみたいと思いました。(経済学部経済学科1年)

**授業スタッフの感想**

大野さんは本当に初回にふさわしい方だったと思います。私は大野さんの本当に進みたい道なのか、という問いかけによって、自分は人とは少し系統の違った自分の真の夢を自覚してはいたものの、単なる理想としてとらえていたのだと思いました。将来的な実現可能性は極めて低いと決めつけていました。エンターテインメントと社会貢献の関連性が見えない、というのも言い訳のひとつでした。でも、そんなことはどうでもよかったんだと思いました。自分の強い意志と行動力さえあれば、何をやってもいいんだと思いました。簡単に気づけそうなことなのに、私にとって衝撃的なことでした。歌とダンスは酸素より大切なものだからそれくらい好きなら突き進めばいいんだと、とてもすっきりしました。これからいろいろ調べて研究したいです。

今回は、資金集めの方法だけでなく自分のWillを探すための理論、ワークシートなど、具体的なアクションに繋げられる講義だった点がとても良かった。また、大野さんはとても論理的に物事を考える方なので、問題を分解・分析し５W1H（特にWhy）を繰り返して解を求めていく思考法がとても興味深く、ためになった。TRUNKの西元さんも含めた彼らのように論理的な思考力のあると、説得力や効率が大幅に変わってくるので、私自身も論理的思考力を養っていきます。

講義の中でLINEの次に来るツールは何なのかというお話を聞いて、次のツールに移る条件がとても興味深いと思いました。また、自分の興味があることについてとことん調べられていることがとても尊敬できるなと感じました。また、企業のための資金の集め方など具体的なお話が聞けて参考になりました。

ベンチャーから学ぶマネジメントという題名に変わったのは何か違うのだろうかと思ったけれど、今回の大野さんの話は実際にベンチャーを始める時にどんな障害に若者はぶつかるのかということを具体的に表していて今までと少し雰囲気が違うと感じました。 Twitterでメッセージのやり取りができたのは今まで友達と関わるしかなかったTwitterの用途が広がったようで嬉しかった。

「大人はいくらでも学生に対して、『これをするといい、あれも良い』と扇動することができる。しかし、学生時代の時間は貴重。取捨選択が大事。」という言葉が最も印象に残った。私は、いくら学生は時間に余裕があるといっても全てもことに取り組むことは不可能だと痛感しているが、つい欲張って様々なことに手を出しすぎそうになる。その時、取捨選択における判断材料として、自分が本当に好きなのか、という尺度を持つことは有効だと感じた。